



ふれあい

発行所：鳥取県人権教育推進協議会（県人教）

〒680-0846 鳥取市扇町21 県立人権ひろば21ふらっと内

電話：0857(22)0578 FAX：0857(22)0593

発行者 岡崎 周治

8,000名の参加者

第70回 全国人権・同和教育研究大会開催！

2018年11月17日(土)18日(日)、全国各地から約8,000名の参加者が集まり、滋賀県大津市のウカルちゃんホール(滋賀県立体育館)をメイン会場として第70回全国人権・同和教育研究大会が盛大に開催されました。

地元滋賀県の太鼓集団「当為」の勇壮な演奏と、滋賀朝鮮初級学校の子どもたちによる華やかでかわいい舞踊で開幕しました。

2日間にわたる分科会では計104本の報告があり、鳥取県からも2本の報告を行いました。各会場で熱心な討議が行われました。



大会宣言

私たちは承認する
世界のすべての人々の尊厳と
平等で譲ることのできない権利を
そして、法の支配によって
人権を保護することが
肝要であることを

私たちは大切にする
差別の現実から深く学び
人とつながる力を育む教育実践を
子どもたち一人ひとりが
自分をかけがえのない存在と認めあえること

私たちは闘う
ネットなどにばらまかれる部落差別
街頭にあらわなヘイトスピーチ
人が生きることを否定する根深い優生思想と

私たちはひろげる
人権・同和教育の理念と実践を
次世代のなかまたちへ
すべての人たちへ

私たちは半世紀ぶりに結集した
朝鮮通信使を歓待した
多文化共生の良き伝統が息づくこの淡海の地
淡海から つながる ひろげる ヒューマンネット
第70回全同教滋賀大会

2018年11月17日 第70回 全国人権・同和教育研究大会

大会総括については、全人教の広報誌「であい」12月号に掲載されています。分科会総括については1月号以降に掲載されます。また、「分散会のまとめ」は全人教ホームページに公表される予定です。

第70回全国人権・同和教育研究大会では、鳥取県から次の2本の報告が行われました。

- 「ともに生きる」～よりよい自分・仲間になるために～ 倉吉市立上小鴨小学校
 - 「ある解放運動の歴史～『トラの穴の29年』」 人権教育サークル「トラの穴」
- 今回は倉吉市立上小鴨小学校の報告の様子を紹介します。「トラの穴」の報告は次号162号（2019年1月発行予定）に掲載します。

<第1分科会 人権確立をめざす教育の創造 第9分散会> 会場 守山市立吉身小学校

報告者 倉吉市立上小鴨小学校

絹見安明さん 熊谷裕子さん

題名 「ともに生きる」

～よりよい自分・仲間になるために～



<報告概要>

上小鴨小学校の人権教育の取り組み

① 「認め合い、支え合う仲間づくり」

自分たちの学級の問題点を見つめ、みんなで話し合う。自尊感情を育成。

② 「卒業までに児童に付けたい力」

「学力保障」「人権意識」「仲間づくり」の内容にまとめ、全学年で取り組む。

③ 「人権尊重の社会づくりの担い手として行動できる力を育む学習」

「あたごふれあい学習」として、各学年のめあてに沿った人権学習を行う。それぞれの学年で、どんなことを考えさせたいか考えて取り組んでいる。

6年生の取り組み 「よりよい自分・仲間になるために」

4年生の3学期、Aさんに対する嫌がらせがあったが、その真相はわからず、子どもたちや保護者にわだかまりが残ったまま5年生を過ごした。6年生の夏休み、Aさんが「4年生の時に起こったことは、すべて自作自演だった。人権学習を5年6年と学ぶ中で、みんなに謝りたいという思いが強くなった。」と友人と担任に打ち明けた。担任は、Aさんが過去の自分を乗り越えようとしていることに対して十分なサポートができるよう、Aさん本人とAさんの保護者への聞き取りや相談を丁寧に行い、6年生保護者会を実施した。

その後、4年生の時のことについての授業を行った。Aさんが事実と今の気持ちをみんなに伝えることから始まった。Aさんに対して肯定的な発言をする児童や、率直に憤りを伝える児童がいた。話し合いが深まるにつれ、問題点が次々と出され、子どもたちも、当時のAさんを追い込んでいったのは自分たちにも問題があったということに気づき始めた。さらに、当時の課題が現在も学級の問題として残っていることにも気づいていった。Aさんに対して否定的な意見を出していた子どもたちも、その思いを理解し、受け入れ、自分自身の問題として考えるように変わっていった。自分の思いを素直に言うことで、これまでのわだかまりがなくなり、気持ちがすっきりした児童が多くあり、伝えることの大切さを実感していた。

続いて、「自分のクラスを見つめよう」では「よくなってきた自分、変わってきた自分」について振り返った。私たちの生活の中で差別を見逃している場面はないのか、私たちはこれからどうしていったらよいのか考えた。この学習は校内の教師にも公開した。参観する教師たちも、

単なる参観者ではなく、授業に参加する場面を設け、子どもと共に自分自身を見つめる時間を作った。

このような様々な学習を何度も積み重ね、卒業時には4月当初に比べ、お互いのことを分かり合い、支え合う仲間になり、中学生になった今もその関係は続いている。

まとめ

学習を進めるにつれて、自分たちの生活の中の振り返りが差別解消につながると感じる児童が増えた。自分自身や友だちのよさを素直に受け止め、仲間の大切さを感じた児童が多く見られるようになり、自己肯定感も上がってきた。学級では、子ども同士の人間関係をいかに築き上げるか、お互い本音が言える関係になっているかということが大切である。毎日の生活の中で起こる様々なことを担任として見逃さず、常に子どもたちに問い続け、考えさせることが必要である。適切なアドバイスを与え、小さな変化でもひとつひとつ丁寧に認めていくことで、担任と子どもとのしっかりとした人間関係もできてくる。そのためには、一緒に働く職員集団がよい関係にあることも大切なことであると考えている。

<討議内容>

上小鴨小学校の報告に対して、会場の参加者から「人権学習の進め方」「Aさんを取り上げた学習の背景や内容」「子どもたちの心の変容」等の質問が出された。そのほとんどは「実践内容についてもっと詳しく知りたい。」というものであり好評であった。報告者の熊谷さんはAさんを取り上げた授業の経緯について次のように答えている。



<熊谷> 4月に受け持った時、子どもたちは6年間一緒に過ごしてきたのに、どこかよそよそしく、言いたいことも直接言わずだれかを通して言うとか陰で言うとか、先生を通して言うとかであった。表面上は会話をしているも本質的なことの解決のための直接の会話がなかったということを感じた。一人一人が主役になって行事をしていく中でひとつひとつの行事を振り返り、自分の思いを伝えたい、言わないとすっきりしないという雰囲気を作りたいと思っていた。そんな中でAさんがこの事例について「話したい。」「変わりたい。」と話してくれたことを転機ととらえ、クラスを変えるためにはこのことは避けて通れないと考えた。ただ、受けとめるまわりの子の土台がまだ十分ではないと判断したので、支える職員集団、家族、保護者会にしたいと強く思った。そしてAさんの変わっていく姿をしっかり支えたいと思った。

クラスの中で授業をした時には、Aさんが保護者と一緒に考えてきた手紙をAさんが読みあげた。学級の土台づくりをしっかりしてからと考えていたが、100%ではない状態であったので、手紙を聞いた後の感想は「謝ったからいいよ」という軽い感じであった。2年間子どもの心のなかにあったものが、この言葉ですべて終わっていいのかという思いがあった。何度もそれでいいのかと子どもたちに問うた。この2時間で全ての子の思いが言えたとは思わない。その学習後も個別に話を繰り返した。

学校の人権教育の計画に基づき、担任の確かな信念に支えられた実践内容は、参加者から好意的に受け止められました。一人一人を見つめ支えていく人権教育を大事にする学校・先生方の姿勢が共感を呼んだ実践報告でした。

<実践報告協力者(司会者)として全人教大会に参加して>

鳥取県立鳥取西高等学校 坂口 俊広さん 第3分科会(進路・学力保障)第2分散会
ピンチヒッターではありましたが、私が司会(実践報告推進協力者)として参加するのは、14年ぶりでしょうか。この間毎年のように自費で一般参加してきた気楽さとは異なって、改めて責任を強く感じました。全人教は、「差別の現実には深く学ぶ」場でもあると思います。報告者の所属県人教や学校種にもよるようにも思いますが、報告が発表会になってはいけないように思います。報告をもとにして議論し、子どもや保護者、発表者個々に影響する差別関係を明らかにする場だと思うのです。だからこそ、熱と光があふれる「場」であるはずであり、司会者の任務は重大なのだと改めて思いました。ありがとうございました。

とっとり震災支援連絡協議会 佐藤 淳子さん 第4分科会第4分散会

「人権確立をめざすまちづくり」—地域の教育力・子ども会活動・啓発活動・地域の学習活動・識字運動・文化創造—第70回滋賀大会の第4分科会を担当しました。当分散会では識字活動と、子ども会交流、学習活動の報告でした。

識字活動では、参加者が少数固定化された運営の中で識字学級とは何かを問い直し、子ども会交流では、部落問題を地域の子どもたちにどのように伝えるのかを問い、地域の学習活動では、なぜ学習していくのかを改めて参加者に問う分科会となりました。

「自分を知らなければ、差別の現実を知らなければ、闘えない。仲間を作れない。」「語り合える子どもを作っていくこと」という意見に触発されてか、自分を語り、この分科会に参加した意義をその人なりに語るという討議になりました。ただここからが大切なことで、人権のまちづくりは、社会意識や、社会のあり様に「語りたい」「語らないといけない」と思わせる現実があるということ。だからこそ、現状を知っていく営みや、そこに生きる人に関わり、考えることのできるまちづくりが必要なのだと改めて考えることができました。

また、全人教の前後に行う県内の協議の場でも、報告レポートをもとに自分自身を問う場面に出会うことが多く、その席に参加できることに感謝しています。

～ 大会案内 ～

第44回人権尊重社会を実現する鳥取県研究集会

2019年 8月8日(木)

会場 倉吉未来中心大ホール他

第71回全国人権・同和教育研究大会三重大会

2019年 1月30日(土)～12月1日(日)

全体会 サオリーナ(津市産業・スポーツセンター)

分科会 津市内の公共施設等(予定) 大会会費 5000円

研修会案内

市町村人権教育行政担当者会

主催 鳥取県人権教育推進協議会

日時 2019年 2月27日(水)

午前10時～12時半

会場 倉吉体育文化会館 中研修室